

URV 研修報告書

広島大学医学部保健学科理学療法専攻

B121358 藤家義也

今回、スペインのカタルーニャ州タラゴナにあるロヴィーラ・イ・ヴィルジリ大学（以下 URV）にて「国際看護とリハビリテーション」についての短期研修に参加させて頂きました。

まずは研修内容について、日本とスペインは他の先進国同様、少子高齢化が問題視されているが、医療制度には雲泥の差があるなど短い期間ではありましたが病院見学などを通じて肌で感じてきました。スペインでは国単位かつ州単位での行政がしっかりしており、どの地域にいても無料の医療サービスを提供できる医療制度が整っていることに深く感服しました。特にプライマリヘルスケアが充実しており、国あるいは各地区で病院の数、医師・看護師など医療従事者の人数を取り決めていました。そうすることで医療の流れがスムーズでかつ医療費を最低限に抑えるための効率の良い医療を提供しており、見習うべき事が多いと感じた一方、緊急の場合を除き公立病院で無料受診するためには約3日間要するなどスペインにおいてもいくつか問題点を見ることが出来ました。日本の医療は社会保険制度が充実しているなど良い面も見られるが、経済的弱者に対する支援や医療制度全体でみた時に問題点が多いと感じました。日本もスペインのように無駄の少ない医療を提供するには国のバックグラウンドや他国との連携も違うため難しいところもあるが、改善していく余地は充分あると感じました。



プライマリヘルスケアセンターの前にて

今までは日本の医療制度について比較する対象がなかったため特に疑問に思うことは多くありませんでした。しかし、この研修を通してスペインの医療制度を知るのみでなく日本の医療について、またその制度について考える契機となりました。プライマリヘルスケアや医療制度同様、メンタルヘルスや高齢者医療などについても学ぶことができ日本・スペインの医療の善し悪しを垣間見ることができて良い経験となりました。

また、URVにおける研修だけでなく、観光を含めた異国の地では初めて経験することが多くあり、とても実りの多い時間を過ごすことができました。英語もあまり通じないスペインではコミュニケーションを取ることも難しく、なんとか手や体、絵などを使って自分の思いを伝える事の大切さを学ぶことができました。また実際に思いを伝えることが出来

たのは大きな自信となり、海外に出ていく抵抗感は少なくなりましたし、機会があれば海外で働きたいと強く思いました。それを実現させるためにもやはり英語のリスニング力は大事だなと痛感しました。今回の研修ではある程度自分の思いを伝えることはできましたが、英語を聞き取れず会話として成立しないことがあったため、今後はリスニング力を向上できるよう自己学習をしていきます。

この研修を通じて、平和グループも含めた参加者全員のモチベーションが高く、お互いに刺激し合える仲間に出会うことができました。バルセロナ観光をはじめ多くの思い出を作り、日本にいただけでは感じることはできない経験を積むことが出来ました。これからもこの仲間を大切にしつつ、本研修を生かして海外を視野に入れた自分だけのキャリアを積んでいきたいと思えます。最後になりましたが、URV 研修に帯同してくださった西谷元先生、二井谷真由美先生をはじめ、今回このような貴重な研修に参加するにあたりお力添えして下さった関係者の方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



世界遺産サクラダファミリアの前にて



平和グループの学生と共に